

---

# SAO二次創作。練習。

漆黒の馬鹿

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

SAO二次創作。練習。

### 【Nコード】

N1945N

### 【作者名】

漆黒の馬鹿

### 【あらすじ】

書きたかったので書いた。

原作のキリトとクラインの出会い。

Webでは描かれてた気もするけど

オリジナル的なのを書こうと思う。

この短編をISの方の設定作りに協力してくれた

My market（名字）で博斗（名前っぽい）な友人に捧ぐ。

…かもしれない。

## （前書き）

SAOの二次創作。

クラインとの出会い。篇の出だしはこんな感じかなあ、と。

設定はあとがきにあり。

注意（？）

作者はSAO：ME1、2、3、4、5、6、7を読んでいません。

また、アリアも諸事情あつて読めませんでした

本作品中ではKIRITOがSACHIたんLOVEな状態に陥っています

EPISODE EX クラインとの始まり。SIDEキリト 出  
だし篇。

「おう、キリトじゃねえか」

後ろからそんな声がかかれたのは

エギルの店で手に入れたアイテムを換金していた時だった。

「クラインか。久しぶりだな」

「そうさな、この前会ったのが1週間前じゃなかったかいよ?」

口調は非難がましく、だが対照的に野武士面をゆがませて

声の主、カタナ使いクラインは笑い答えた。

「そうだな。あのあとはしばらく外で野営していたからな」

「野営? そりゃなんだ。キリトよお」

クラインは頭に疑問符を浮かべて聞いてくる。

感情表現が少々オーバーはこの世界でも、

さすがに実際に疑問符が浮くわけではないが

そんな印象をこちらは受ける。

「そこは察してくれよ。」

サチのいないこの世界なんてな……」

「あ、ああ。悪かった。」

以外に元気そうだったから思わず、な」

クラインの表情が今度は自責でゆがむ。

「ははっ、冗談。」

あのあとサチのメッセージボイスを聞いてな、

希望がまだあるってことがわかったんだ」

「な、なに！？それは本当か？」

この世界で死んだら向こうの俺らも…。

あの野郎も最初に言ってたじゃねえか！」

今度は驚愕。

コロコロと面白いやつだ。

「まあ、それについては今度話すとして」

「ま、まて。それは俺も興味があるぞ」

ずっと黙っていたエギルが入ってくる。

「話を進めるぞ。」

それで、野営していた時にな、お前との出会いを思い出したんだ」

「出会い？なんだったかな。もうおりゃあおぼえてねえぜ？」

やっぱりか。

この野武士面にはその程度がちょうどいい。

「ほう。それはそれで面白そうだな。俺にも聞かせてくれないか？」

「いいぜ。」

そうだな……。たしかあれは21層のことだったな……………

## （後書き）

作者（以下漆「ふう。書き終わった。

キリト（以下和「なにがだ。結局何も書いてないじゃんか

漆「だってさ。これ以上書くとボロがでそうで…

和「最初からもつと設定を練れよ！

漆「まあまあ、いいじゃん。今度ちゃんと書く予定だからさ。

和「よくないからな。

漆「ここで設定紹介！！

和「スルーすんなよ！

設定。

大筋はWEB版準拠。

そのためクラインとの出会いは21層が初めてとなる。  
時系列は赤鼻のトナカイのサチが死んでから1週間後。  
蘇生アイテムがあるというご都合主義。

一応そのアイテムにも落ちと言うかなんというかがある。  
原作で茅場がやろうとした脳のコピーの応用のつもり。

（おり主の出る二次を書こうと思うので。）

漆「いつか続きを出せたらいいと思いますので  
宜しく願います。

和「なにを宜しくするんだよ！

ていうかいつか出すんだったら今すぐ出せよ！

漆「このあとがきでは作者の力量不足により、  
キャラが崩壊しています。

和「道理で。俺が俺じゃないような感じがすると思ったわけだ。

完。

漆「ところで作中で言ってたペルソナ・セッ スサービスって何？

和「そういう話題はノクタでやろうか。



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1945n/>

---

SAO二次創作。練習。

2011年9月29日20時26分発行